北海道におけるエゾナキウサギの南限の生息地

川辺　百樹[1]・中岡　利泰[2]

The southern limit of the habitat of Northern Pikas *Ocotona hyperborea yesoensis* in Hokkaido

Momoki KAWABE[1] and Toshiyasu NAKAOKA[2]

はじめに

北海道におけるエゾナキウサギ *Ocotona hyperborea yesoensis*（以下ナキウサギという）の南限の生息地は，これまで日高山脈の南部，三枚岳（標高970m．なお，この山名は，国土地理院発行の2万5千分の1地形図や5万分の1地形図には記載されていない）の南斜面とされていた（小野山・宮崎 1991）．

この南限の生息地から南へ4km程離れた国道336号の追分峠付近（えりも町，標高130m）で，1993年7月20日にナキウサギの交通事故死体が発見された（図1）．これによって，事故地点と三枚岳の生息地との間にナキウサギの生息地が存在する可能性がでてきた．

ナキウサギは，北海道では岩塊地（岩が積み重なった所）を生息地としいる（川辺 1989, 1992）．そこで，三枚岳と追分峠の間にナキウサギが生息できる岩塊地が存在するかを明らかにするため，追分峠の北側の地域において調査を行なった．その結果，ナキウサギの北海道における新たな南限の生息地を発見したので報告する．

調査地の概要と調査方法

追分峠は，襟裳岬の北方約11kmに位置する．この峠付近をほぼ東西に断層が走り，峠の北側と南側で地形や地質が大きく異なる．峠の北側は，起伏の緩やかな山地を経て日高山脈の急峻な山岳地帯へと続く（図2）．起伏の緩やかな山地の地質は，ホルンフェルスからなり，急峻な山岳地帯は，主に花崗岩質ミグマタイトからなる（船橋・猪木 1956）．花崗岩質ミグマタイトは，風化作用により大きなブロック状の岩塊になる．このため斜面の条件によって岩塊が積み重なって岩塊地を形成する．一方，峠の南側は海岸段丘が浸食さた丘陵地帯で，砂岩や粘板岩質砂岩が分布する（猪木・垣見 1956）．これらの岩石は，風化作用により小さく破砕されるため岩塊地ができない．

調査は，1996年11月9日に行なった．地質図幅（船橋・猪木 1956）によって花崗岩質ミグマタイトが分布する上歌別川上流，歌別川砂防ダム付近，オキシマップ山南麓，ルチシ山南麓を調査地点に選び，岩塊地を探した．岩塊地があった場合には，岩の隙間をのぞき，糞や貯食植物の発見に努めた．

結果と考察

上歌別川上流の標高200m付近（図1の1，2），歌別川の標高150～180m付近（図1の3，4，5）ルチシ山南麓の標高250m付近（図1の7，8）で，岩塊の堆積が認められた．しかし岩塊の堆積量は少なく，面積も最大で50㎡程であった．岩塊の間には貯食植物や糞などナキウサギの痕跡が見つからなかった．したがって，これらの地点は，ナキウサギの生息地となっていないと判断した．

1）ひがし大雪博物館　〒080-1403 北海道河東郡上士幌町糠平，Higashi Taisetsu Museum of Natural History, Nukabira, Kamishihoro-cho, Hokkaido, 080-1403, Japan
2）えりも町郷土資料館　〒058-0203 北海道幌泉郡えりも町字新浜，Erimo Town Museum, Sinhama, Erimo-cho, Hokkaido, 058-0203, Japan

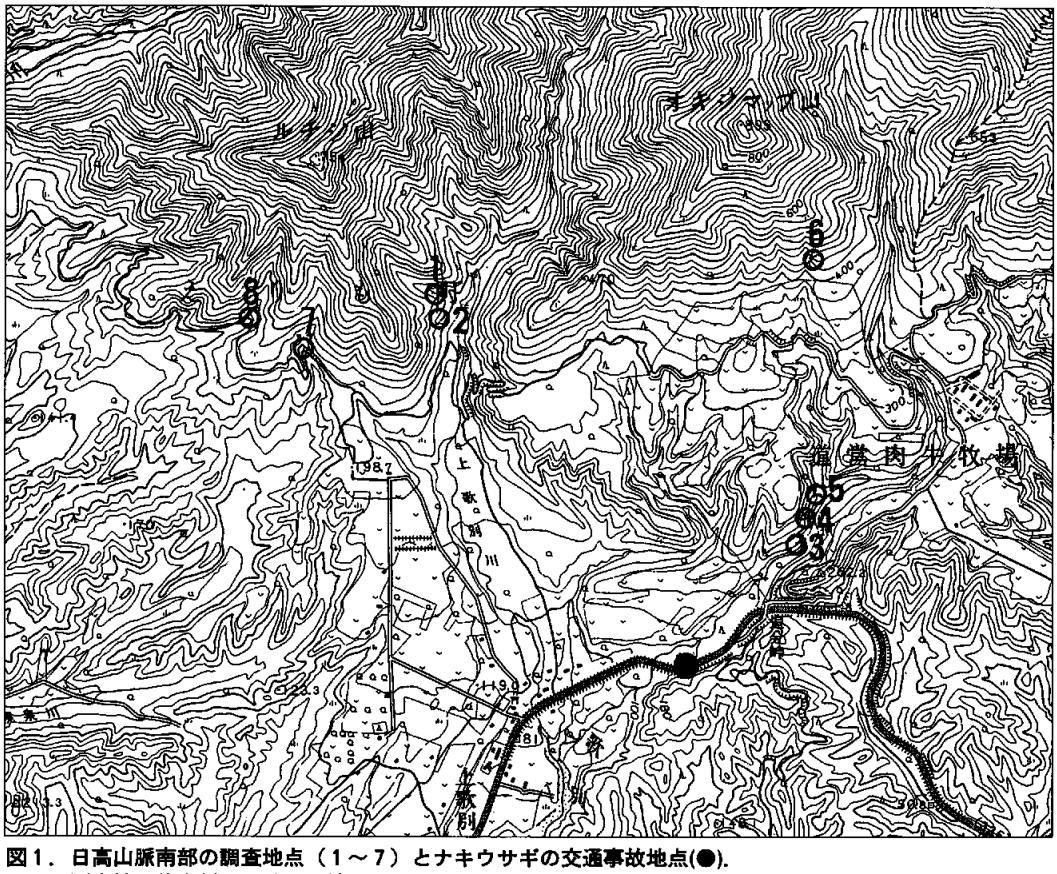

図1．日高山脈南部の調査地点（1～7）とナキウサギの交通事故地点(●).
国土地理院発行5万分の1地形図「えりも」使用

Fig.1 Study sites(1～7) and the scene of traffic accident of a Northern Pika (●) in the southern part of Hidaka mountains.

オキシマップ山南麓の標高430～450m付近（図1の6）には岩塊地（面積は計測できず）があり，3ケ所でナキウサギによって貯蔵された新鮮な植物（シダ植物）を発見した（図3）．調査当日は雨天で，これが影響したらしくナキウサギの鳴き声を聞くことはできなかった．今回，貯食が発見された地点は，これまでナキウサギの北海道の南限の生息地とされた三枚岳の南斜面から南西へ約2kmの所に位置する．したがって，ここが北海道におけるナキウサギの新たな南限の生息地ということになる。

今回，発見されたナキウサギの生息地と交通事故地点の間には，ナキウサギの繁殖個体群が生息できるような岩塊地は認められなかった．したがって，この個体は，ナキウサギの生息地から直線で約2.8km離れた地点に出現したことになる．つまり今回の事例から，ナキウサギは生息可能な岩塊地がなくても数kmの移動をすることが明らかになった．

ナキウサギの生息地となる岩塊地は，北海道中央部の山岳地帯に点在している．このためナキウサギは，道路などの存在によって岩塊地間の移動を妨げられると個体群が孤立して，遺伝的劣化をきたすおそれがある．ナキウサギの交通事故死は，然別湖付近の道道726号でも知られている（埼野隆一郎氏私信）．ナキウサギ生息地周辺の道路が，ナキウサギの移動の阻害要因の一つとなっていると見なければならない．したがって，ナキウサギ

図2．ナキウサギの交通事故現場からみた日高山脈
Fig. 2 The view of Hidaka mountains from the scene of traffic accident of a Northern Pika

図3．オキシマップ山南麓の標高430～450m付近（図1の6）で発見されたナキウサギの貯食植物
Fig. 3 Ferns stored by Northern Pika at about 440m in altitude at the southern slop of Mt. Okishimappu.

の生息地付近の道路については，ナキウサギの交通事故を防ぐための方策が検討されなければならない．また，ナキウサギ生息地での新たな道路の建設は，慎重でなければならない．

謝　　辞

本稿の作成に当たり，岩見恭子氏（岩手大学連合大学院）に貴重な助言をいただいた．また英文の作成にあたり斎藤潤氏（ひがし大雪博物館友の会）に協力をいただいた．両氏に厚くお礼申し上げる．

文　　献

小野山敬一・宮崎達也，1991．北海道における分布．「野生動物分布等実態調査報告書－ナキウサギ生態等調査報告書」（北海道保健環境部自然保護課），pp.25－55．北海道．

川辺百樹，1989．ナキウサギと地学．郷土と科学，100・101：14－16．郷土と科学編集委員会．

————，1992．ナキウサギの分布と地質要因（1）．ひがし大雪博物館研究報告，14：103－106．

船橋三男・猪木幸男，1956．5万分の1地質図幅説明書「幌泉」，1葉＋64pp.，地質調査所．

猪木幸男・垣見俊弘，1956．5万分の1地質図幅説明書「襟裳岬」，1葉＋22pp.，地質調査所．

Summary

A Northern Pika killed in a traffic accident was collected near the Oiwake pass (Erimo town) in the southern part of Hidaka mountains on 20 July 1993. To our knowledge, the nearest habitat of the Northern Pikas from the scene, that was located at south slop of Mt. Sanmaidake, was approximately 4km north of the scene of the traffic accident. We found a new habitat at a distance of 2.8km to the north of the scene. This is the southernmost habitat of the Northern Pikas in Hokkaido. It was revealed that even if there were not any block fields, they had been able to migrate at least several kilometers. The migration of Northern pikas was obstructed by the traffic accident. Therefore the road construction near their habitats must be considered.